

熊本県の畜産の概要

令和7年（2025年）4月
熊本県

全国の農業における熊本県農業の地位

1 主要農産物の生産量

- ① 農業生産の主要な担い手である認定農業者数は全国第3位、基幹的農業従事者数は全国第5位
- ② 令和5年の農業産出額は全国5位、生産農業所得は全国第2位
- ③ 全国第1位が6品目（トマト、すいか、不知火類（デコポン）、葉たばこ、いぐさ、宿根カスミソウ）あり、その他にも、カリフラワー、なす、メロン、しょうが、くり、トルコギキョウなど、全国的にも上位を占める品目が多数

区 分		単 位	全 国	九 州	熊 本 県	熊本県の全国に占める 順 位 割合(%)	
認 定 農 業 者 数 (R5.3月末)		千人	219.9	43.1	9.9	3	4.5
基 幹 的 農 業 従 事 者 数 (R5年)		千人	1,163.5	193.0	43.5	5	3.7
耕 地 面 積 (R5年)		千ha	4,297.0	506.3	104.3	14	2.4
農 業 産 出 額 (R5年)		億円	94,991	...	3,757	5	4.0
畜 産 産 出 額 (R5年)		億円	37,248	...	1,371	7	3.7
生 産 農 業 所 得 (R5年)		億円	32,930	...	1,554	2	4.7
主 要 農 畜 産 物 の 収 穫 量	ト マ ト (R4年)	千 t	707.9	196.6	130.3	1	18.4
	す い か (R4年)	千 t	315.9	67.6	48.0	1	15.2
	不知火類(デコポン) (R3年)	千 t	36.6	...	10.6	1	29.0
	葉たばこ(販売量) (R3年)	千 t	14.2	7.6	2.7	1	19.0
	い ぐ さ (R4年)	千 t	5.4	...	5.4	1	対主産県比 99.2
	宿 根 カ ス ミ ソ ウ (R4年)	千本	45,800	...	17,800	1	38.9
	カ リ フ ラ ワ ー (R4年)	千 t	22.2	3.8	2.6	2	11.7
	な す (R4年)	千 t	294.6	61.6	33.4	2	11.3
	メ ロ ン (R4年)	千 t	142.4	29.6	24.4	2	17.1
	し ょ う が (R4年)	千 t	46.2	11.7	5.3	2	11.5
	な つ み か ん (R3年)	千 t	29.4	...	6.3	2	21.4
	く り (R4年)	千 t	16.3	...	2.3	2	14.1
	ト ル コ ギ キ ョ ウ (R4年)	千本	84,500	...	10,000	2	11.8
	い ち ご (R4年)	千 t	161.1	52.3	11.7	3	7.3
	ア ス パ ラ ガ ス (R4年)	千 t	23.2	8.3	2.3	2	9.9
	乳用牛(飼養頭数) (R6年)	千頭	1,313.0	97.8	43.0	3	3.3
	うんしゅうみかん (R5年)	千 t	681.6	...	80.6	4	11.8
	肉用牛(飼養頭数) (R6年)	千頭	2,672.0	978.2	134.0	4	5.0
	うち褐毛和種(あか牛)	千頭	23.4	17.5	17.0	1	72.6
	か ん し ょ (R5年)	千 t	715.8	...	18.4	6	2.6
	水 稻 (R6年)	千 t	6,792.0	...	148.6	16	2.2
	肉 牛 出 荷 頭 数 (R5年)	千頭	1,098.5	...	44.6	4	4.1
	生 乳 生 産 量 (R5年)	千 t	7,298.9	582.0	256.3	3	3.5
	鶏 卵 生 産 量 (R5年)	千 t	2,437.8	...	43.5	21	1.8

熊本県畜産の全国における地位

畜種	全国順位	都道府県	飼養頭羽数	飼養戸数	1戸当たり
乳用牛 R6.2		全国	1,313,000頭	11,900戸	110.3頭
	1	北海道	821,500頭	5,170戸	158.9頭
	2	栃木	52,800頭	553戸	95.5頭
	3	熊本	43,000頭	457戸	94.1頭
	4	岩手	38,700頭	692戸	55.9頭
	5	群馬	31,900頭	355戸	89.9頭
肉用牛 R6.2		全国	2,672,000頭	36,500戸	73.2頭
	1	北海道	558,500頭	2,120戸	263.4頭
	2	鹿児島	362,700頭	5,980戸	60.7頭
	3	宮崎	258,200頭	4,390戸	58.8頭
	4	熊本	134,000頭	2,020戸	66.3頭
	5	長崎	93,500頭	1,980戸	47.2頭
豚 R6.2		全国	8,798,000頭	3,130戸	2,810.9頭
	1	鹿児島	1,200,000頭	387戸	3,100.8頭
	2	北海道	752,200頭	261戸	2,882.0頭
	3	宮崎	721,900頭	186戸	3,881.2頭
	4	群馬	610,800頭	163戸	3,747.2頭
	5	千葉	580,700頭	223戸	2,604.0頭
	8	熊本	347,900頭	126戸	2,761.1頭
採卵鶏 (成鶏雌のみ) R6.2		全国	129,729千羽	1,640戸	79.1千羽
	1	千葉	11,186千羽	90戸	124.3千羽
	2	茨城	10,222千羽	83戸	123.2千羽
	3	岡山	7,089千羽	48戸	147.7千羽
	4	鹿児島	7,081千羽	101戸	70.1千羽
	5	愛知	6,618千羽	113戸	58.6千羽
	24	熊本	2,015千羽	38戸	53.0千羽
ブロイラー R6.2		全国	144,859千羽	2,050戸	70.7千羽
	1	鹿児島	32,003千羽	402戸	79.6千羽
	2	宮崎	28,155千羽	442戸	63.7千羽
	3	岩手	23,604千羽	301戸	78.4千羽
	4	青森	7,639千羽	59戸	129.5千羽
	5	北海道	5,531千羽	8戸	691.4千羽
	8	熊本	3,746千羽	56戸	66.9千羽

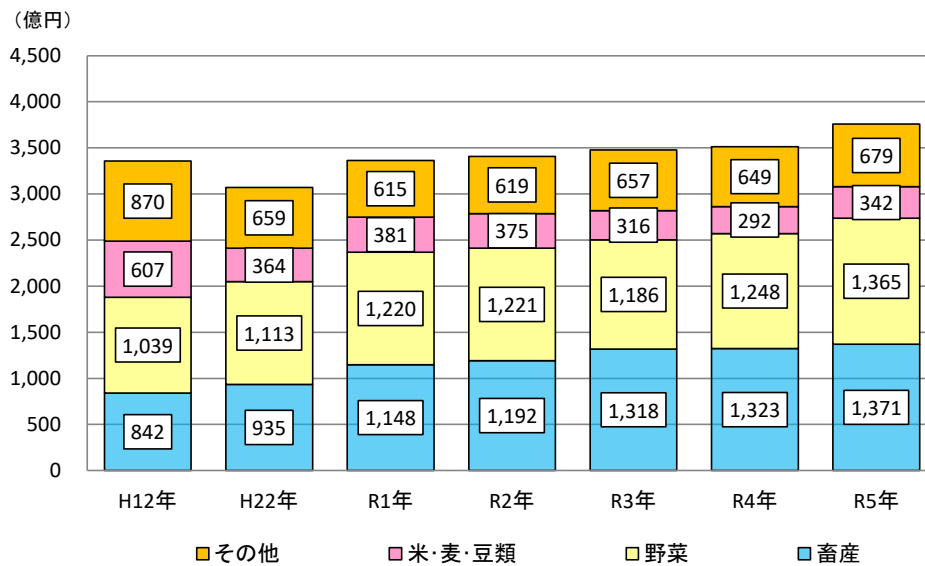
資料：農林水産省「畜産統計(R6年)」

令和5年熊本県の農業産出額

1 農業産出額の推移

平成2年には過去最高の4,016億円となったが、近年は横ばい傾向が続き、令和5年は3,757億円（全国第5位）となった。

令和5年の農業産出額の主要部門別構成割合をみると畜産部門が最も多い36.5%を占め、県農業の重要な部門となっており、次いで野菜（36.3%）となっている。

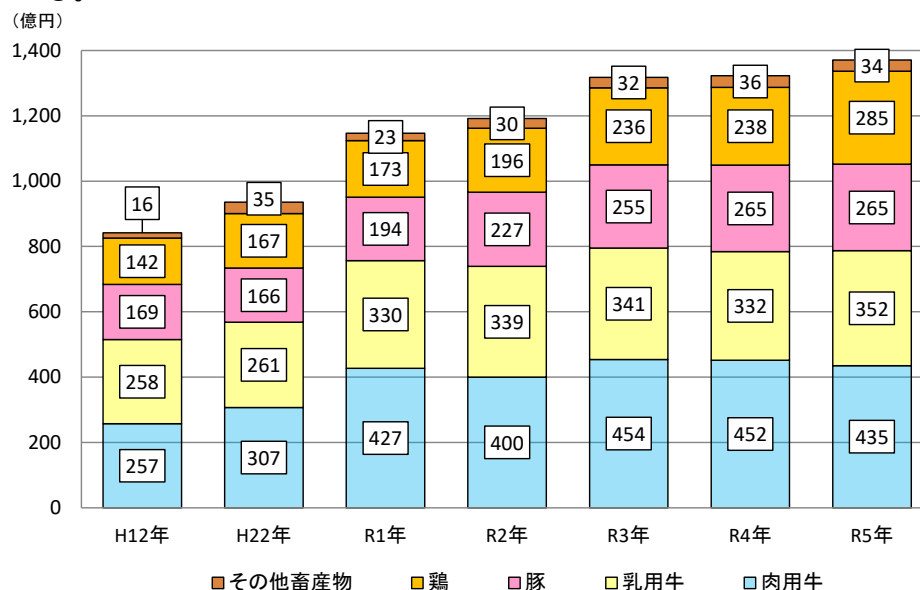


資料：農林水産省「生産農業所得統計」

2 畜産産出額の推移

畜産産出額は、令和5年は1,371億円となった。

畜種別では、肉用牛が435億円（畜産産出額に占める割合31.7%）と最も高く、次いで乳用牛352億円（同25.7%）、鶏285億円（同20.8%）豚265億円（同19.3%）の順となっている。



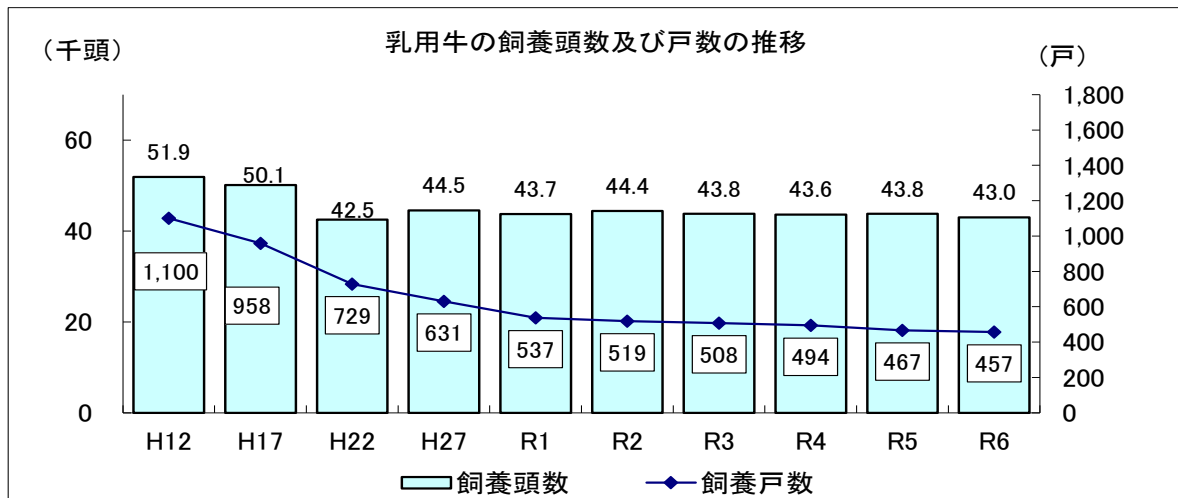
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

部 門 別 の 現 況

1 乳用牛

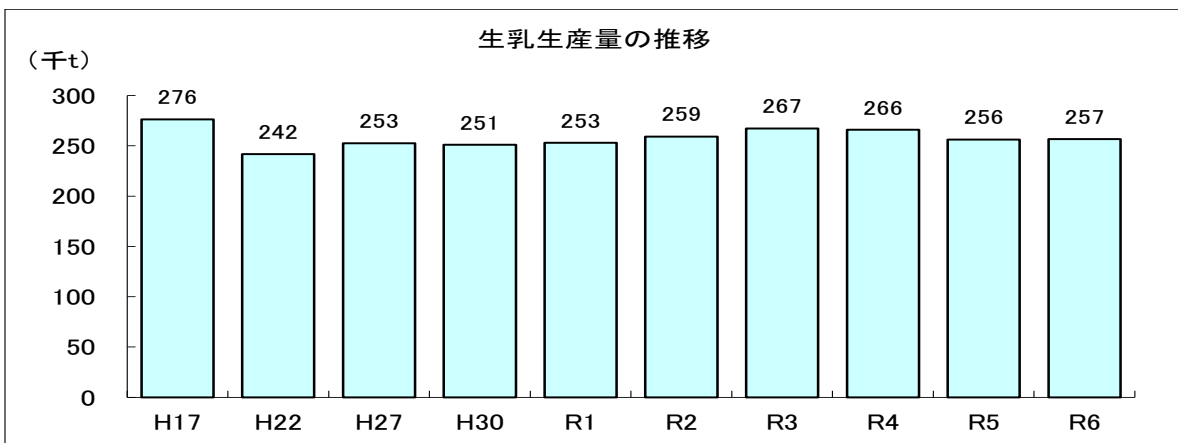
(1) 飼養の状況（令和6年）

- ・飼養戸数：457戸（前年比2.1%減）
- ・飼養頭数：43,800頭（前年比1.83%減）



(2) 生乳生産量（令和6年）※速報値

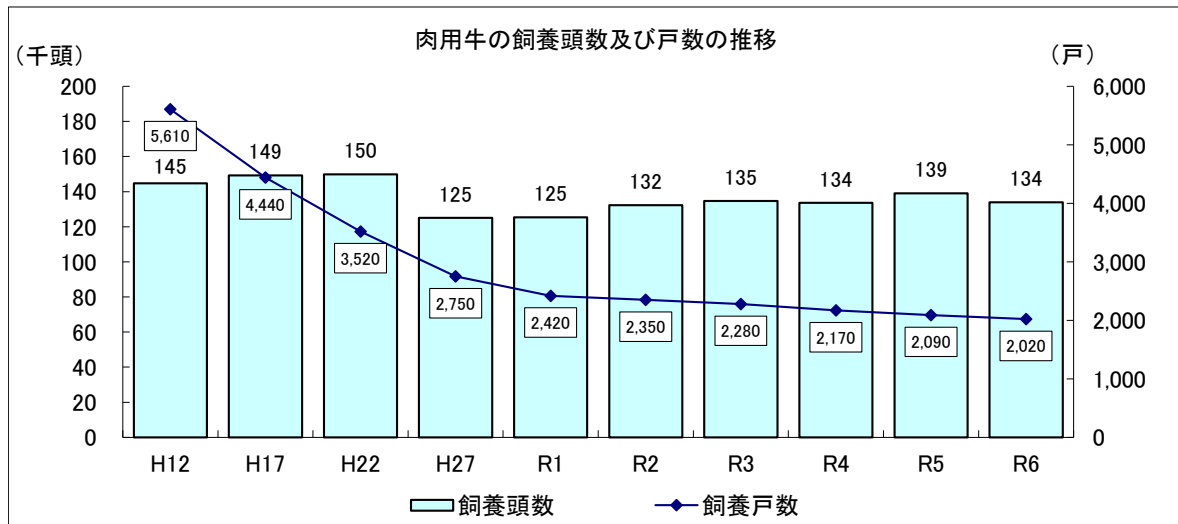
- ・生乳生産量：256.8千トン（前年比+0.2%）、西日本第1位



2 肉用牛

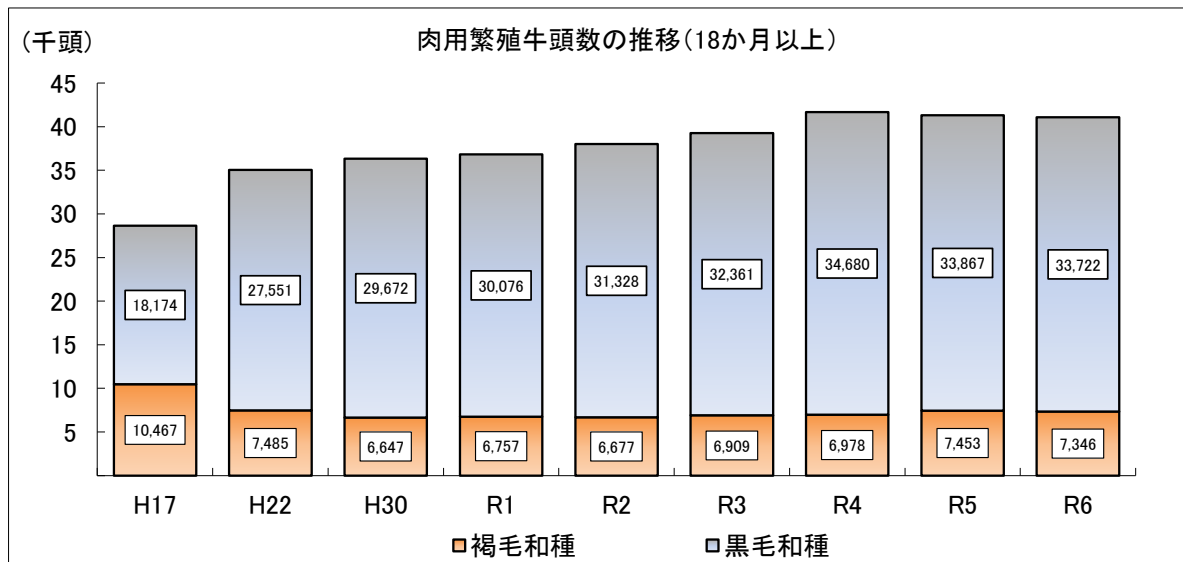
(1) 飼養の状況（令和6年）

- ・飼養戸数：2,020戸（前年比3.3%減）
- ・飼養頭数：134,000頭（前年比3.7%減）



資料：農林水産省「畜産統計」

- ・繁殖雌牛飼養頭数：41,068頭（前年比0.6%減）
 うち黒毛和種33,722頭（前年比0.4%減、肉用繁殖牛に占める割合82.1%）
 うち褐毛和種 7,346頭（前年比1.4%減、肉用繁殖牛に占める割合17.9%）



資料：「熊本県畜産統計」（熊本県）

注）調査時点は、平成23年度以前は各年の12月31日。
 平成24年度以降は、各年の2月1日。

(2) 肉用子牛の価格（令和6年）

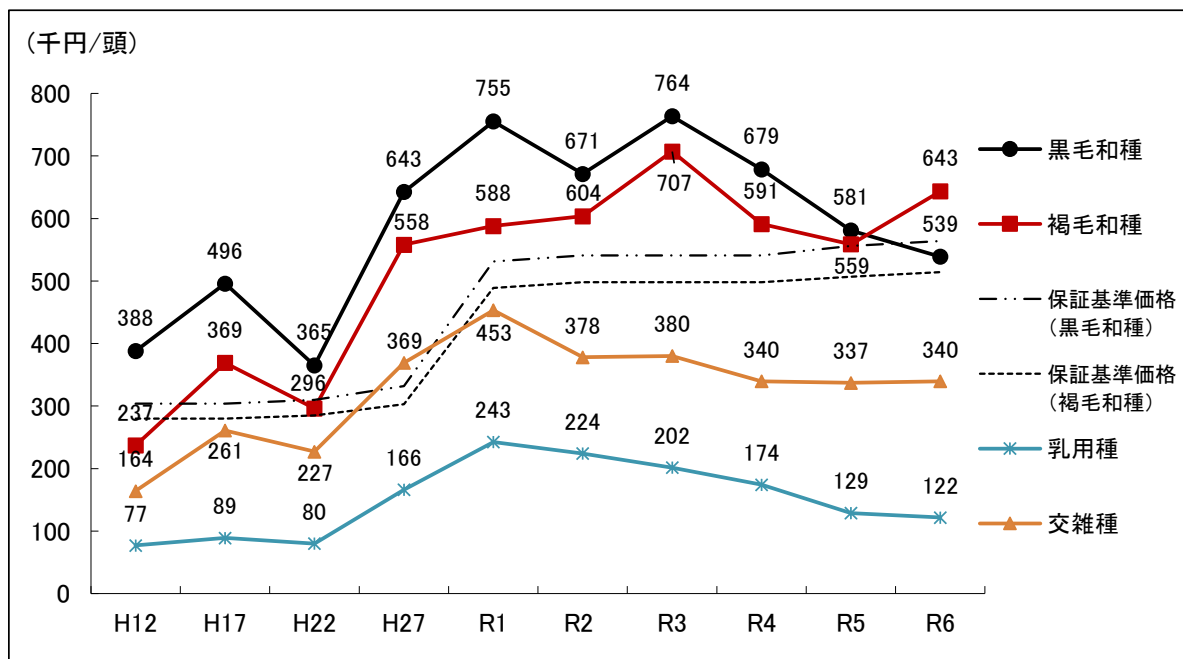
- ・ 黒毛和種 539千円（前年比 7.2%減） 直近（R7.2月）587千円 ※速報値
- ・ 褐毛和種 643千円（前年比15.2%増） 直近（R7.2月）683千円 ※速報値

平成 24 年度以降、全国的な繁殖雌牛の減少により子牛の分娩頭数が減少したことに加え、枝肉価格が上昇したことから、肉用子牛価格も上昇。

しかし、令和2年度は、黒毛和種の価格が、新型コロナウイルス感染症の影響による外食及びインバウンド需要減少の影響を大きく受け、前年を下回って推移。一方、褐毛和種は、全国的な赤身肉ブーム等により枝肉の引きも強く、子牛価格は前年を上回って推移。

令和3年度は、枝肉価格の上昇に伴い、子牛価格も回復したが、令和4年度は、飼料価格高騰の影響による肥育農家の買い控えと考えられる子牛価格相場の低下がみられ、さらに令和5年は、物価高騰による和牛肉の消費低迷により枝肉の引きが弱いことから子牛価格は低下。

令和6年度においても同様の傾向から、黒毛和種の価格は前年を下回って推移しているが、直近の価格は回復傾向を見せている。褐毛和種においては、枝肉の引きが強いことから、黒毛和種の価格を上回って堅調に推移。

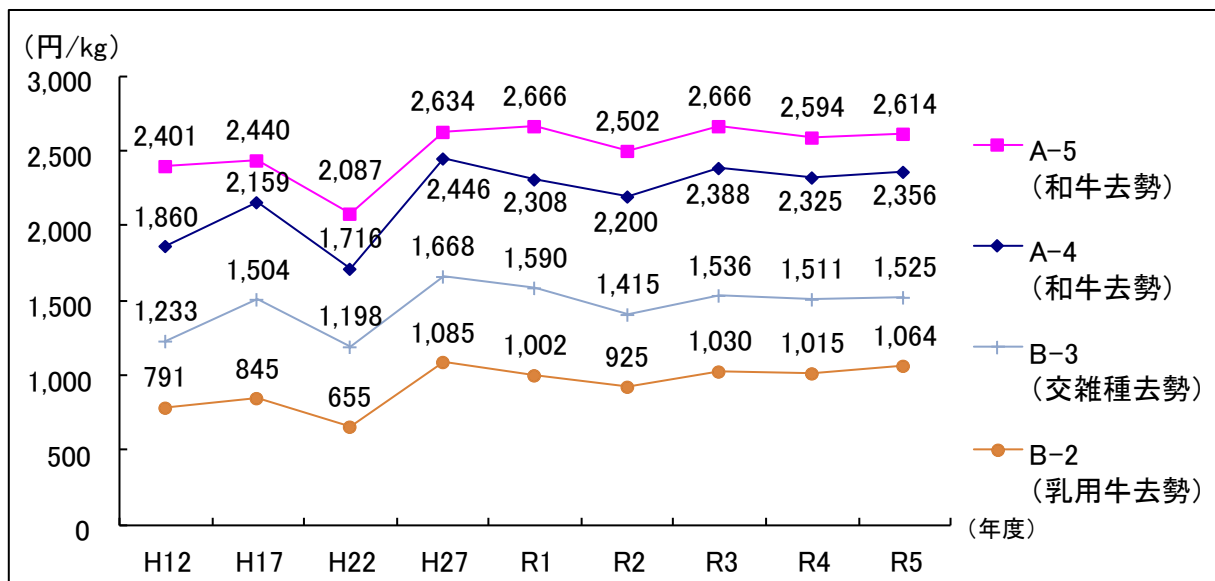


資料：(独)農畜産業振興機構公表値（H16年までは（公社）熊本県畜産協会集計値）
参考：R3年度から、集計の対象となる条件を変更。

(3) 牛枝肉の価格（令和5年度、卸売価格）

- ・和牛去勢 A-5 2,614 円（前年比 0.8%増） 直近（R7.3月）2,530 円
- ・和牛去勢 A-4 2,356 円（前年比 1.3%増） 直近（R7.3月）2,265 円
- ・交雑牛去勢 B-3 1,525 円（前年比 0.9%増） 直近（R7.3月）1,502 円
- ・乳用牛去勢 B-2 1,064 円（前年比 4.8%増） 直近（R7.3月）1,131 円

令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響による外食及びインバウンド需要減少の影響を大きく受け低下。その後経済活動の再開や輸出の回復に伴い上昇し、令和3年度は、前年を上回って推移。令和4、5年度は物価高騰の長期化に伴う和牛肉の消費低迷の影響を受け、軟調に推移。令和6年度においても同様の傾向から、前年を下回って推移。

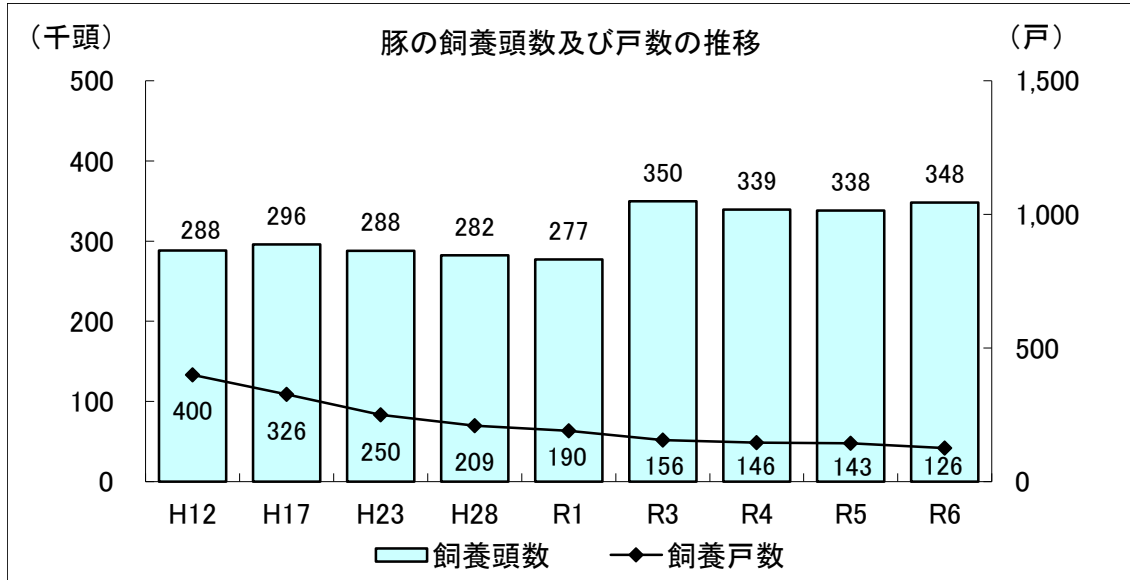


資料：農林水産省「食肉流通統計」（東京市場）

3 豚

(1) 飼養の状況（令和6年）

- ・飼養戸数：126戸（前年比11.9%減）
- ・飼養頭数：347,900頭（前年比2.9%増）

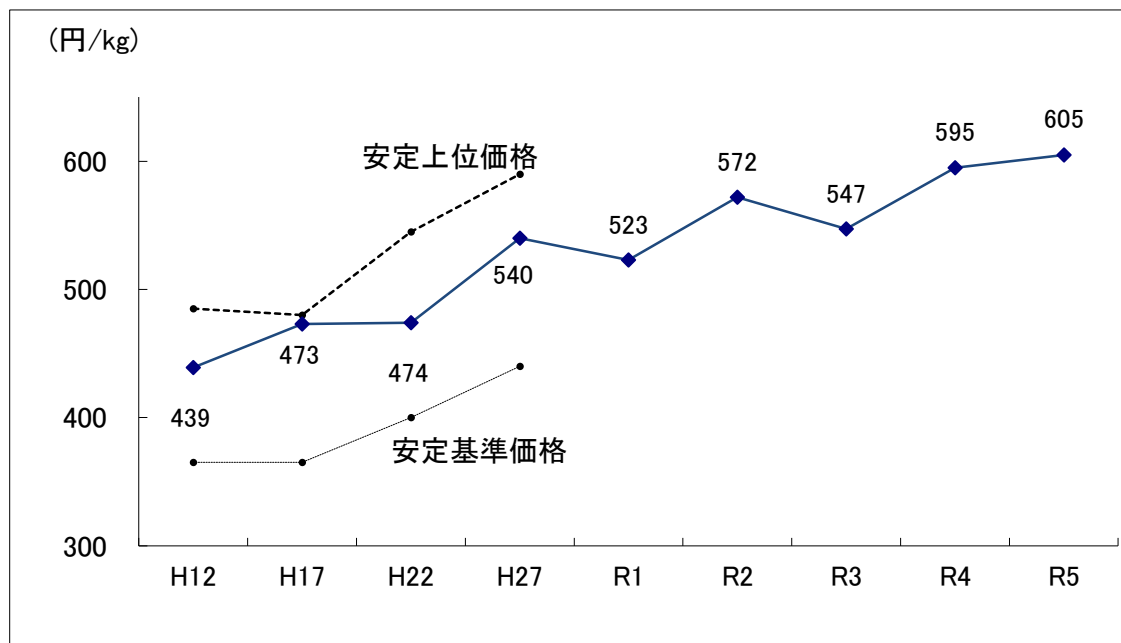


資料：農林水産省「畜産統計」

(2) 豚枝肉の価格（令和5年度、卸売価格）

- ・605円/kg（前年比1.7%増） 直近（R7.1月）593円

令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により巣ごもり需要により高値で推移。令和4～5年度は、円安の影響により輸入豚肉の価格が上昇したことから、国産豚肉への需要が高まり、過去最高価格を更新。令和6年度においても、同様の傾向から、令和5年をさらに上回る水準で推移。

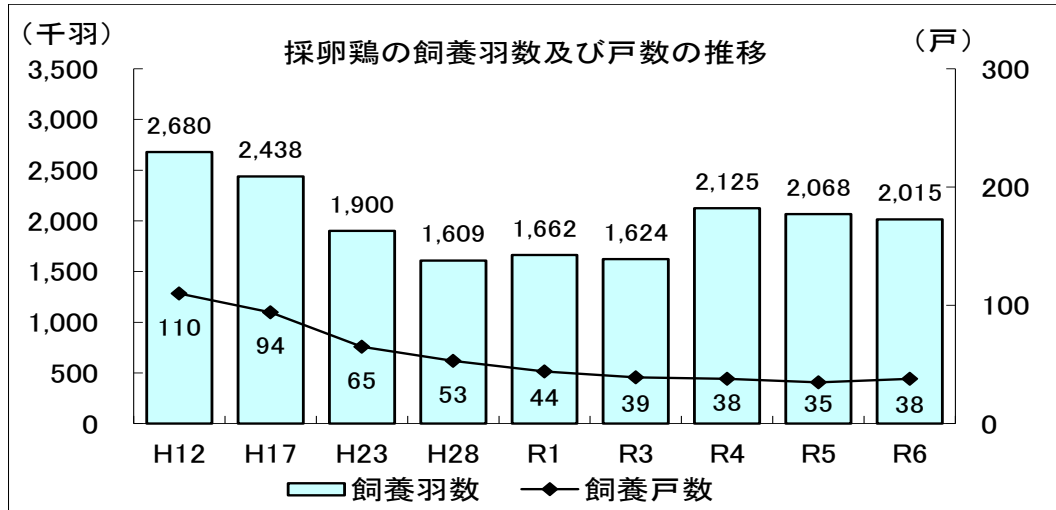


資料：農林水産省「食肉鶏卵速報」

4 採卵鶏

(1) 飼養の状況（令和6年）

- ・飼養戸数：38戸（前年比8.6%増）
- ・飼養羽数：2,481千羽（前年比2.9%減）



※グラフの飼養頭羽数は成鶏雌のみ

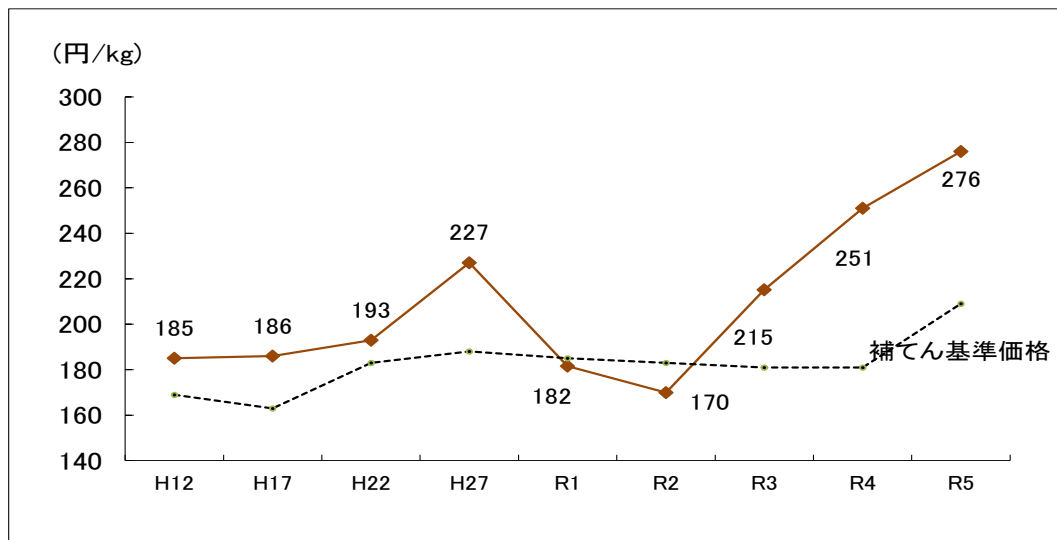
資料：農林水産省「畜産統計」

(2) 鶏卵の価格（令和5年度、卸売価格）

- ・276 円/kg（前年比 10.0%増） 直近（R7.2月）315 円/kg

令和3年度は、令和2年度シーズンの高病原性鳥インフルエンザ発生の影響により加例年を上回って推移。令和4年度は秋以降の高病原性鳥インフルエンザにより、採卵鶏の殺処分が使用羽数の1割強になったことから、大幅に上昇。令和5年度もその影響を受け、さらに高値で推移。

令和6年度は、猛暑による夏場の供給量減少や、今シーズンの鳥インフルエンザの発生（R7.2.1時点：14道県51事例、約935万羽の殺処分）の影響により、令和5年度シーズンの鳥インフルエンザの発生が少なかったことや発生農場での再導入が進んだこと等により、秋以降価格が高騰し、例年を上回る水準で推移。

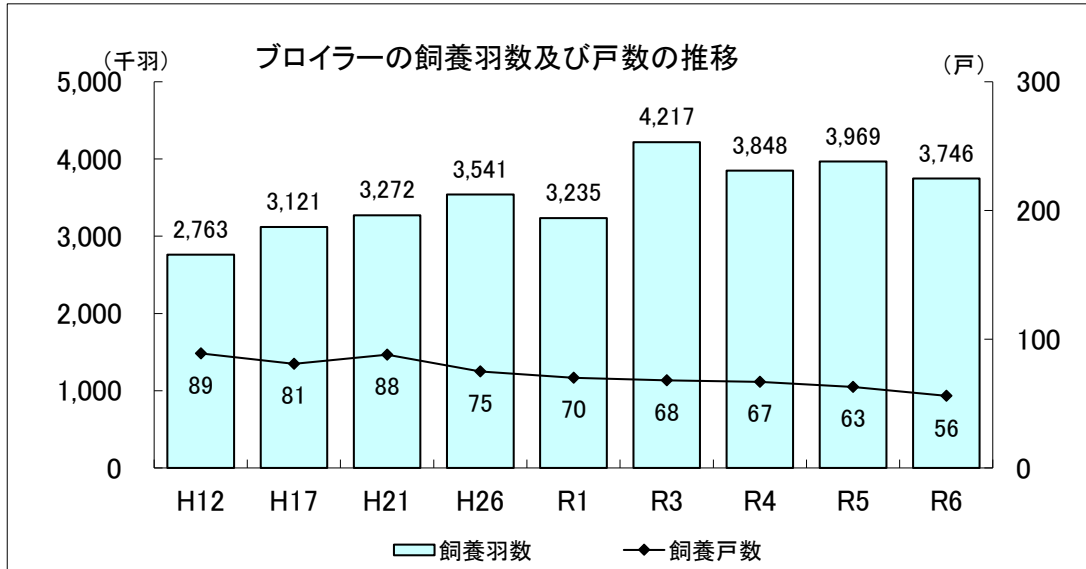


資料：農畜産業振興機構「鶏卵の価格」、株式会社 JA 全農たまご（東京 M）

5 ブロイラー

(1) 飼養の状況（令和6年）

- ・飼養戸数：56戸（前年比11.1%減）
- ・飼養羽数：3,746千羽（前年比5.6%減）



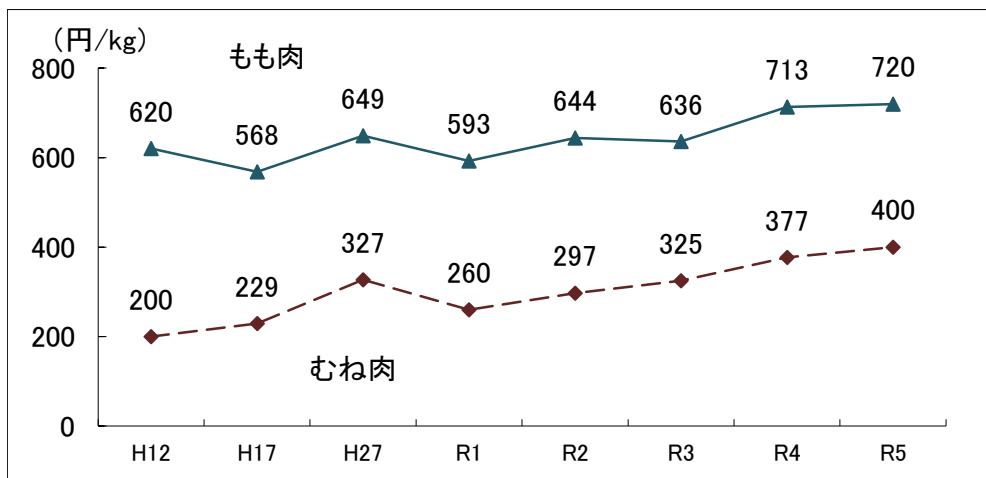
資料：農林水産省「畜産統計」

(2) ブロイラーの価格（令和5年度、卸売価格）

- ・もも肉：720円/kg（前年比6.0%増） 直近（R7.2月）772円
- ・むね肉：400円/kg（前年比10.5%増） 直近（R7.2月）415円

令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により巣ごもり需要や健康志向の高まりを受け、高値で推移。令和4年度は、価格が高水準となっている輸入鶏肉の代替需要増加により、さらに高値で推移。令和5年度は、令和4年度と同様の状況が続き、前年を上回る高値で推移。

令和6年度は、物価高による節約志向から牛肉や豚肉よりも安価な鶏肉への需要は高いものの、前年よりは下落傾向で推移。



資料：農林水産省「食鳥市況情報」

6 農用馬

(1) 飼養状況（令和6年）

- ・飼養戸数：97戸（前年比16.9%増）
- ・飼養頭数：重種馬（繁殖）444頭（前年比74.8%増）
肥育馬頭数：3,304頭（前年比3.3%増）

馬の飼養戸数及び飼養頭数の推移

（戸、頭）

		H20	H27	R1	R2	R3	R4	R5	R6
飼養戸数	（全国）※1		4,799	4,536	4,474	－	－	－	－
	（熊本県）※2	95	118	88	98	96	93	83	97
総飼養頭数	（全国）※1	83,152	69,041	78,247	77,762	－	－	－	－
	（熊本県）※2	5,354	3,979	4,642	4,933	4,390	4,424	3,947	4,446

※1：（公社）日本馬事協会まとめ（R3以降データ公表なし）

※2：熊本県畜産統計（調査時点：～H23は各年の12月21日、H24～は各年度の2月1日
（飼養戸数及び総飼養頭数には、軽種馬、乗用馬、小格馬も含まれる）

重種馬頭数及び子馬生産頭数の推移（1才以上）

（頭）

		H20	H27	R1	R2	R3	R4	R5	R6
重種馬（繁殖） （明け2才以上）	（全国）※1		1,896	1,950	1,878				
	（熊本県）※2	202	358	287	221	347	334	254	444
（参考） 子馬生産頭数	（全国）※3		1,101	1,041	1,020	1,341	1,283	1,156	1,141
	（熊本県）※3	85	80	96	93	74	82	94	98

※1：（公社）日本馬事協会まとめ（R3以降データ公表なし）

※2：熊本県畜産統計（調査時点：～H23は各年の12月21日、H24～は各年度の2月1日
（飼養戸数及び総飼養頭数には、軽種馬、乗用馬、小格馬も含まれる）

※3：（公社）日本馬事協会まとめ

肥育馬頭数及びと畜頭数の推移

（頭）

		H20	H27	R1	R2	R3	R4	R5	R6
肥育馬	（熊本県）※1	4,295	2,984	3,736	4,146	3,296	3,492	3,197	3,304
と畜頭数	（全国）※2	15,003	12,466	10,297	10,291	11,367	11,198	10,098	
	（熊本県）※2	7,062	5,642	4,334	4,403	4,990	4,904	4,385	

※1：熊本県畜産統計（調査時点：～H23は各年の12月31日、H24～は各年度の2月1日）
（飼養戸数及び総飼養頭数には、軽種馬、乗用馬、小格馬も含まれる）

※2：農水省「畜産物流通統計」

肥育馬頭数は、令和2年のコロナ禍の影響で、馬刺しの外食需要が低迷したことから、一時減少したものの、現在は回復傾向で推移。

一方、長引く物価高騰の影響で、高級品である馬刺しの国内消費量はコロナ前の水準まで回復しておらず、と畜頭数は減少傾向で推移。なお、直近のと畜頭数は、全国で年間約10,000頭、うち熊本県は約4割を占めている。

7 飼料作物

(1) 作付面積の状況

- ・とうもろこし : 3,300ha (前年比 7.1%増) (令和5年)
- ・ソルガム : 618ha (前年比 3.1%減) (令和5年)
- ・牧草 : 13,500ha (前年比 4.9%減) (令和5年)
- ・稲WCS : 9,401ha (前年比 2.6%増) (令和6年)
- ・飼料用米 : 1,392ha (前年比 15.4%減) (令和6年)

近年は、青刈りとうもろこしとソルガムが減少を見せる一方で、稲WCSと飼料用米は増加し、飼料作物全体の面積は横ばいで推移していた。しかし、令和5年度は、配合飼料価格高騰の影響から、青刈りとうもろこしは220ha増加した。令和6年度、稲WCSは増加したものの、飼料用米は減少。

(ha)

区分		H12	H17	H22	H27	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
青刈りとうもろこし		6,080	4,590	4,330	3,720	3,410	3,400	3,210	3,060	3,080	3,300	
ソルガム		1,990	1,340	1,420	965	768	744	756	713	638	618	
牧草		13,100	13,100	12,900	14,300	14,400	14,400	14,400	14,400	14,200	13,500	
飼料用稲	稲WCS	143	1,144	3,308	6,987	7,748	7,757	7,852	7,994	8,519	9,167	9,401
	飼料用米	-	-	654	1,296	1,269	1,175	1,135	1,295	1,672	1,646	1,392
計		21,313	20,174	22,612	27,268	27,595	27,476	27,353	27,462	28,109	28,231	10,793

(資料) 農林水産省「耕地及び作物面積統計」及び「新規需要米の取組計画認定状況」

【課題】

- ・配合飼料価格の高止まりが続いていることから、耕畜連携による自給飼料の増産、熊本型放牧の推進、コントラクターやTMRセンター等の飼料生産外部支援組織の育成・強化により、国産飼料の確保を総合的に推進していく。
- ・国が青刈りとうもろこしの生産拡大を大きく打ち出したことや、主食用米価格の高騰の影響により、生産現場では、飼料用米の生産縮小に対する懸念が出ている。